# 植物見て歩きの記

渡辺定路

昭和46年の7月上旬、突然文化課から文化庁が実施している「天然記念物緊急調査」（植生図、主要動植物地図の作成）を依嘱された。2～3年前から話があれば正確な植生図が作成できるのであるが、藪から棒のようなこの状態では良心的なものはとの心配があったが、とにもかくにも作成しなければならないので、次のような計画をたてた。

県下一円を四つのブロックに分け、それぞれの担当者をきめ12月一杯に一応の植生図を作成することにした。小生は若高の上坂正夫氏と組んで若狭地区を担当することになった。また、特に調査しにくい県境は夏休み中に有志で調査することにした。

平家岳、能郷白山　　7月22～25日

三の峯～取立山　　8月4～　10日

黒河、栗柄谷　　8月16～19日

百里岳～頭巾山　　8月22～25日

小生は上記の調査に参加したので、これらの地区の目についた植物等を説明します。

7月22日　梅雨はまだあがらないが、明日を期待しながら斉藤寛昭、下道治一、竹内民男氏と共に和泉村の役場に行き、平家岳に案内する周戸さん（久沢の人）と合流して久沢に向かう　夢の架橋の所で小生等一行は油坂峠までの植林状況を見るために周戸さんと分かれ油坂峠に向かう。霧のため視界が狭く、道路周辺の植生しかわからなかった。午后4時頃、久沢の周戸さんの出作り小屋に到着し、そこに一泊、23日、今日も雨、雨の中を周戸さんの車で4㎞ほど林道を進み、そこから鉱山跡までは、古い細い道をたどった。その道路横にはオトコヨウゾメ、サラサドウダン、コツクバネウツギ、バイカツツジ、ハスノハイチゴ、マルバノキ等表日本から侵入した植物が多いことから岐阜県に近いことをひしひしと感じた。

鉱山跡からは道がないので谷を登って尾根に出る。尾根にはキタゴヨウ、ヒノキ、ヤマグルマ、ハクサンシャクナゲ、ホンシャクナゲ、アスヒカズラ、ノリクラアザミ、チシマザサ、ムラサキヤシホ、ウラジロヨウラク、カライトソウ、キッコウキスゲ、シモツケソウ等が見られた。霧の中を歩くだけで頂上がどこかわからないので、二～三ケ所の植生調査をして下山した。尾根筋の険しい所はヒノキ、シャクナゲ、アカミノイヌツゲ、キタゴヨウ等が生育し、金草山の尾根に似ていた。

24日　今日も雨、大野市役所に9時までに行く約束なので7時に出発、大野の町に近づくにつれ

て雨は次第に激しくなるので能郷白山は中止することにしたので、この旨を市役所に連絡し帰宅した。

２５日は標本整理をし、石本氏や上坂氏に今後の日程を連絡、　２６日　石本氏が小生宅にこられたので奥越の県境の植生について話し合う。倉又山（西谷村巣原の奥の方）のミズバショウを調査に行こうという。しかし空いている日は３１日と１日しかないので、早速に斉藤氏、下道氏に連絡すると、すぐにＯＫの返事を得たので実施することに決定。２９、３０日は坂尻での海産動物採集会に出席し、３１日、午前７時に下道氏の車で大野駅に行き、石本氏と合流し巣原の平家平まで車で行く。平家平から倉又山までのなだらかな道を歩き、正午頃ミズバショウの群生地に到着した。ミズバショウの群落は、倉又山より少し下った所の、なだらかな谷筋（幅１０～２０米、長さ200米前後）に自生。個体数は取立山よりも多いが、群落内にはマルバマンサク、ハイイヌツゲ、サラサドウダン、フウリンウメモドキ、ムシカリ、コミネカエデ、ブナ等の低木が多くはいり込んでいる。途中の道路横には、ヒゴオミナエシ、ホソバガンクビソウ、ヒロハユキザサ、ズダヤクシユ、コシジダビラコ、キソチドリ、シラネワラビ、オオバシヨリマ、ツルタチツボスミレ等あり、昭和８年以後採集されなかったデバコワラビを採集できたことは最大の収穫であった。夜は温見峠近くの壊れかかったプレハブ住宅の中に泊る。１日、今日も晴、温見峠付近のブナ林の植生調査をし、午后３時帰路に向かう。小屋の付近でノウゴイチゴを採集。これは部子山、三の峯に次いでの産地である。西谷村のブナ林も、和泉村と同様皆伐されて原生林は全くない状態である。８月２日は坂井郡の採集会で丈競山、３日は博物館の採集会で岩屋観音、４日　台風接近の天気予報を聞きながら午前８時にジープで出発し、大野で石本、小林氏と合流し、山越跡の下まで車で行く。下車すると台風接近を知らせるように風は相当強く吹いていたが、今後の日程を考えると前進あるのみと考え、三の峯の頂上めざして登り始めた。六本松で昼食をとる。ここで女子２名のパーテイと、我々の食糧を荷上するアルバイト学生と対面した。尾根道を進むにつれ、風は次第に強くなり、下から吹き上げる風により時々吹き飛ばされようとしたが、午后３時頃三の峯の小屋に到着した。１０分すぎても斉藤、小林、石本氏が来ないので、迎えに行けば、荷上げの学生２名がへばったので、その荷物を持ってきたとのことであった。早速それらの荷物を小屋にあげ終えたのが午后４時頃であった。小屋の中の住人は、明大の山岳部１１名（石徹石から登山）、女子２名、我々４名の計１７名である。４時すぎからたたきつけるような雨が降り、小屋の下の雪渓の所に水汲みに行くだけでずぶぬれになる状態であった。明けて５日も激しい雨と風であった。何もすることなく、寝袋の中で雑談の一日。正午頃小池の方から男２、女１が小屋に到着、小屋は満員になる。食糧は三日分、７日は赤兎山に行く予定なので、雨が７日まで降ると三の峯の調査は零になるので１日日程をのばし、８

日に赤兎山に行くことに決め、昼からお粥を作り、食糧を残すことにした。6日　今日も朝から雨と風、明大生は食糧との関係で、雨の中を白山に向かって出発した。午后2時頃、雨がやんだので小屋の周囲の植生を調査した。この時にネコシデを採集した。4、5、6の3日間山小屋に籠城し、ほとほと退屈してしまった。7日、風もおさまり、雨もあがる。我々4人以外は皆白山めざして出発。我々は、午前中は黒ん坊平、午后は頂上付近の植生を調査した。午后には国学院大のワンゲルを含め17名が加わり計21名となり、物置に2名寝る状態であった。8日　今日は尾根道を赤兎山まで縦走する日である。剣ケ岩の下の方のミズバショウの群落（小生が5月31日に見つけたもの）を調査し、杉峠で昼食、途中のブナ林は皆伐されていて暑いのに困った。それでも少し残っているブナ林を調査、兎平の山小屋には午后5時半頃到着した。しかし三ッ子石から兎平までは何回通ってもつらい所である。9日　赤兎平、赤池を中心に調査、小林氏は日程が1日ずれたので五所ケ原には11日の正午頃迎えに来るようにとの連絡のため、小原に行く。10日　朝5時に起床、窓をあければ願教寺、荒島岳の頂上付近にたなびいている雲のきれいなこと、一幅の絵である。今日は最後のつらい日である。小原峠で水を汲み、大長山で調査、昼食、針伏山で調査し、午后5時頃取立山の小屋に到着した。

11日　朝5時に起床、標本のしわ伸ばし等を終え、8時頃出発。こつぶり山でアカミノイヌツゲ林を調査し、護摩堂峠から大根畠を通って五所ケ原に到着、大根畠付近の杉林は皆伐され道は荒れていた。ここで杉林の伐採跡の群落を調査した。これより少し下ったところでミズナラ林を調査し、正午頃五所ケ原に到着し昼食のパンを食べる。食後8日間の汗を谷川の水で流し、迎えのジープに乗り勝山に到着、ここでビールで乾杯して別れた。

8月16日　今日から4日間、黒河国有林に宿泊して滋賀県との県境の植生を調査。加越国境縦走の疲れも大部分とれたので、午前6時23分発の列車で鯖江に行き、下道、斉藤氏と合流して敦賀駅へ、駅で上坂、乾氏と合流して黒河国有林へ向う。黒河国有林には数回来ているが県境まで来たことがない。しかし年々自然林は伐採され人工杉林のみ増加しているのは残念である。1つの谷ぐらいは自然林を残しておいてほしいものである。16日、17日は黒河国有林内に残っているブナ林の植生を調査した。

採集した主な植物は、カラタニイヌワラビ、タニイヌワラビ、ウラボシノコギリシダ、ミヤマベニシダ、マンネンスギ等の羊歯植物、ツルタチツボスミレ、ダイセンキスミレ、シヤクジヨウソウ、ビロードタツナミ、イブキトリカブト、コシジタビラコ、ナガエノアザミ、ルイヨウボタン、ベニバナボロギク、オオネバリタデ、モミジハグマ等の草本類、ヒロハコツクバネウツギ、エゾアジサイ、クロミニシゴリ、テツカエデ、オオウラジロハナヒリノキ、ウスユキハナヒリノキ、フウリン

ウメモドキ、メグスリノキ、ベニドウダン、タンナサワフタギ、アカイタヤ、シロモジ等の木本類であった。

１８日　美浜町新庄の奥の粟柄谷にはいった。滋賀県に通じる林道が８分程度できていて、自然林はなく、二次林ばかりであった。しかし、頂上に近い所にはアシウスギが点在していた。

ナガバヤブマオウ、イワアカバナ、ヤマクルマバナ、ヤグルマソウ、シモツケソウ、タイミンガサ、サンインシロカネソウ、ヒカゲミツバ、フシグロセンノオ等の草本類や、キハダ、チドリノキ、オオウラジロノキ等の木本類や、ツルデンダ、ノキシノブ、カラクサイヌワラビ、オオヒメワラビ等の羊歯を採集した。

１９日は敦賀から山中方面等の滋賀県境方面を見てまわった。

羽水高等学校教諭